

## 少年野球指導をして 27 年

西村 吉朗

「男ボラ 20 年の歩み」とは云っても、私には、男ボラの活動以外に「少年野球の指導」があります。

多摩市少年野球クラブは、小学 1 年～ 6 年生。低学年チームは 1 年～ 4 年生、高学年チームは 5, 6 年生の編成です。

今年で 27 年目。理事長、部長、監督、コーチ、審判員等、いろいろやって来ました。最初に任せられたのは、低学年チーム、1 年生を担当。キャッチボールを始めたらボールが取れなくて、顔や手に当り泣く子が続出し、これではだめだと思い、距離を短くし自分が座って、「そら行くよ。1. 2. 3」と投げて取る。取れたら「上手じゃうず」とほめてやる。1 時間位で、まあまあの出来になった。3 ヶ月も過ぎると野球の基本になって来た。次は走塁と守備。口では簡単に云うけど、バッターボックスと一緒にボールを当てる。守備はノックをして貰い、1. 2. 3 前進左足前へ、カカトの処でグラブを出す。捕ったらすぐ投げる。週 2 回の練習では上達度が上がらないのは仕方ない。根気が必要。子供たちが笑顔で声が出、礼儀正しく挨拶も出来るようになり一歩前進です。

長い間には、いろいろな出来事が有ります。監督時代、15 連敗。野球と云うものが判っていない。少しでも野球を知っている子を育てようと、3、4 年生 4 人を探し、集中指導。これが当り、初白星。嬉しかったです。

所詮、子供の野球、怪我無く笑顔で楽しくワイワイとさわぐ人生。これでよし、親子そろって頑張ろう。

本当に野球がしたければ、中学、高校生からでも遅くはない。本人のやる気次第です。外には、リトルチームが沢山あります。

監督という仕事は孤独で、自分しか判らない。以前、公式戦で主審を務めたことがありましたが、試合後、負けたチームから「今日の試合は審判に負けた」と大声で云われ、辛い思いもした。そんな大人気ないチームもありました。また、少子化の波には勝てません。全学年で 30 名前後。毎年チーム編成で苦労しています。

一方、楽しいこと、一番心に残っていることは、教え子が「春の選抜」に抜擢されて甲子園初出場。1 回戦で敗退して残念でしたが、こんな楽しい一面もありました。

60 歳以上離れた子供達と一緒に遊んで居られるのは今の内かも。スポーツをする子に悪い子はいない。これからも子供達の育成に、希望を持って頑張りたいと思っています。

## 男ボラと共に

瀬野 克義

現役を引退してからは登山や旅行など自分の趣味を思う存分やって余生を楽しもうと張り切っていましたが、誰でも気付く矛盾に突き当たりました。こんな生活は数年もすると飽きがくると云う事です。

そんな時、男ボラ先輩の板東さんと知り合いになり、ボランティアの見学に誘われました。最初は平成 17 年 10 月の府中の森でのボランティア事業、11 月に多摩モノレール駅での車いす講習会参加を経験し、男ボラ定例会の様を見学しませんかとのことで、12 月の定例会を見学しましたら早速男ボラ会費の徴収をされました。

結局、男ボラへの入会は平成 17 年 12 月になりました。

その後は、ひとときの和、ふれあいタイム、こども祭りで子供たちとの遊び、障がい者通所施設の研修旅行、車いす体験等の経験を通じて障がい者の方々との付き合いが多くなり、数年もすると豊富な経験と共に友人、知人が現役時代と比較しても多くなり、私にとっては貴重な財産になりました。



定例会後の飲み会、悠々隊でのハイキング等を通じて交流も深まり、今ではまだまだ新人ながら男ボラの中では図々しく振舞っています。



最近はボランティアセンターや障がい者団体でのお付き合いで貴重な経験をさせていただき、ますます自宅に籠っている時間が少なくなりました。

リタイア後の人との出会いが私の人生にとって豊かになっています。

男性ボランティア会議も設立 20 周年を迎えました。

今後も現役引退した方の参加を期待し、男ボラの素晴らしい仲間を増やし、30 周年、40 周年を祝う夢を見ています。

## 無題

藤森 正法

私の入会は、Oさんの勧誘により、今から6年前の2007年になります。右も左も分からないまま入会致しましたが、結論から申しますと、私のボランティア心に大きな変化がありました。即ち

1. ボランティアは、「して差し上げる」ものでなく『させて頂く』ものである事・・・理由 車椅子を押してあげると相手は悦びます。その悦び顔は、無類ですね。これはお金を貰った時・熱心に研究した成果が認められた時・恋人に逢えた時等に見せる悦びとは全く異なります。  
又、〇〇小学校で昔遊び等をした時、4年生位の無邪気さたっぷりの子に接すると、親子でもないのに『ニコッと』全く疑いを知らないかの様に「親愛の情」こもった笑顔を向けて呉れます。
2. あとは一般的ですが・・・汗を流すので、健康ライフが送れます。
3. ボランティア仲間との交流の場は、お互いを気遣いながら和気あいあいと一心同体気分になり盛りがあって、気分転換になります。有り難い一言です。

入会の動機にホンノチョッピリ。・・・私も「多少身体が動くうちは人に尽くし、駄目になったら尽くして貰おう」等と云った不遜かつ邪な気持ちもあったみたいですが、これは大いに反省しています。

なにしろ月一回の例会が楽しみですね。万難排して出席を心がけますが、それでも時々、これもどうしても欠かせない会合とバッティングすると「どっちにしようか」その日の朝迄悩む事があります。

つまり、苦渋の選択を経て、ヤッパ「MVA」を選んでます。

後、何年続くか続けられるか知る由もありませんが、少なくとも次回第30回は、見届けたいと思っています。

誘って下さったOさん有り難う！！

## さだまさしの「奇跡」

上杉 雅好

先日、NHKのTVで さだまさしの「さださん、あのね」 in 大船渡の再放送を見る機会がありました。復興支援で行われた企画のようです。その放送の最後に、彼が歌った曲「奇跡」に心動かされました。津波でご主人を亡くされた40代くらいの奥様のご希望のようでした。歌詞を紹介いたします。

どんなにせつなくても必ず明日は来る  
ながいながい坂道をのぼるのはあなた独りじゃない

僕は神様でないから本当の愛は多分知らない  
けれどあなたを想う心なら神様に負けない  
たった一度の人生にあなたとめぐりあえたこと  
偶然を装いながら奇跡はいつも近くに居る

ああ 大きな愛になりたい あなたを守ってあげたい  
あなたは気付かなくてもいつでも隣を歩いていた

どんなにせつなくても必ず明日は来る  
ながいながい坂道をのぼるのはあなた独りじゃない

今日と未来の間に流れる河を夢というなら  
あなたと同じ夢を見ることが出来たらそれでいい  
僕は神様でないから奇跡を創ることはできない  
けれどあなたを想う奇跡なら神様に負けない

ああ 大きな愛になりたい あなたを守ってあげたい  
あなたは気付かなくてもいつでも隣を歩いていた  
ああ 大きな夢になりたい あなたを包んであげたい  
あなたの笑顔を守るために多分僕は生まれてきた

どんなにせつなくても必ず明日は来る  
ながいながい坂道をのぼるのはあなた独りじゃない

振り返ってみますと仕事を卒業して、何をしていこうかと模索している時にボランティア活動に関わりを持ちその後すぐに 3月11日の東日本大震災がありました。東北3県へのボランティア活動には残念ながら加わることはできませんでしたが、さまざまなボランティア活動があることを知り、その年が私のボランティア元年、スタートの年となりました。

ここ「男性ボランティア会議」では、経験豊かな諸先輩にもまれながら、なんとかついていくのがやっとでしたが最近ようやく自分なりのスタンスで関わっていこうと考えていたところ、この歌詞に出会いました。これはキット「愛」の歌なのでしょうが、「ボランティア活動」の歌ともいえるのではないかと考えると気持ちがある方向に収束するような・・・ そんな感じです。

健康が続く限り、このようなボランティア活動を続けて行きたいと想っています。



経験豊かな？先輩たちと